

風と雲の便り

野殿・童仙房から……

野殿・童仙房へ…… vol.7

教育と農業の類似性はよく指摘される。どちらも〈育てる〉ためには時間が必要になるからだ。いよいよ、エクステンション（公開）講座の種を蒔く時が来た。エクステンションという言葉は拡大や延長という意味があるがもともと、農業改良事業から派生した言葉である。アカデミズムの学問の農学が現場の農業と乖離しすぎたため現場から学ぶことが、求められた。そこから、エクステンションが始まった。私たちのエクステンション講座もその精神を継承したい。実りの秋を迎えるために、長い目で見守ってほしい。



風と雲の広場

きたる10月28日、「風と雲の広場」を開催します。7月15日に第2回目の「風と雲の市」を予定していましたが、あいにくの台風で中止となりました。今回は、エクステンション講座に加えて、地域内外の有志の方からの企画も新たに加わり、子どもからおとなまで楽しく気軽に集っていただける広場になればと思っています。

日時：10月28日（日） 10:00～16:00

場所：旧野殿童仙房小学校校庭

主催：野殿童仙房生涯学習推進委員会

◆エクステンション講座「化石に触れよう」



大野先生の似顔絵

① 11:00～12:30 ② 14:30～16:00

大野 照文先生（京都大学総合博物館 教授）
「大昔の化石はどのように復元するのでしょうか。三葉虫を例にクイズ形式で実習します。観察眼と考察力を鍛えるため、スケッチをし、かなり意地悪な質問に答えていただきます。全問正解した人は三葉虫博士に認定します。」

◆〈虹色万華鏡?〉を作ろう

① 11:00～ ② 11:30～ ③ 13:30～

江角 陸先生（大阪府立千里高等学校 非常勤講師）

「太陽の光は7色の虹色の集まりですね。回折格子という特殊なフィルムを使って、太陽の光を7色に分けて見ましよう（分光といいます）。そして、少し工夫をして覗いてみましょう。紙コップ全体にちりばめられたたくさんの回転する虹がみえます。名付けて〈虹色万華鏡?〉です。」※手作り万華鏡の展示もあります。



手作り万華鏡の世界

◆rimacona ミニコンサート 12:40～13:00

rimacona（柳本奈都子さん・原摩利彦さん〔教育学部4年生〕）

「童仙房にて演奏をさせて頂くことになりました。これまでに熊本の子守唄や広島の子守唄の音源など地域の音を使った作品を制作してきました。今回は童仙房の風の音や、風と雲の広場に集まった人たちの音を交えた演奏をしようと思っています。」

◆野童太鼓 14:10～14:20

野殿と童仙房の地域の活力となるようにと、野殿童仙房小学校に在職した馬場正幸先生が指揮する地元の親子による和太鼓サークルです。

◆「チャオ！」の広場 13:00～13:30

地域通貨「チャオ！」を介した物々交換の広場です。お持ちいただいた物1品につき、「チャオ！」1枚と交換します。「チャオ！」の広場内にある物はどれでも「チャオ！」1枚と引き換えでもらうことができます。本・おもちゃ・服など、交換してもよい物がありましたら、何点でもご持参ください。また、お持ちいただく物に対する思い出などを書いたメッセージあるいはお名前やイニシャルをつけていただいても構いません。物を介した交換を通じて、新しいコミュニケーションが生まれるかもしれません。

※アクセスなどに関しては、下記のホームページをご参照ください。

		10:00～
11:00～ 〈虹色万華鏡?〉を作ろう① ～11:30	11:00～	「チャオ！」 引き換え受付
11:30～ 〈虹色万華鏡?〉を作ろう② ～12:00	エクステンション 講座① 「化石に触れよう」 ～12:30	
12:40～ rimacona ミニコンサート ～13:00		大野先生を質問攻 めて困らせる時間
13:30～ 〈虹色万華鏡?〉を作ろう③ ～14:00		13:00～ 「チャオ！」の広場 ～13:30
14:10～ 野童太鼓 ～14:20		
	14:30～	
	エクステンション 講座② 「化石に触れよう」 ～16:00	

手作り品、小物など何でもご自由にマーケットに出品できます。（10:00～16:00）

今後のお知らせ、詳細などは <http://souraku.net/manabi/>

京都大学問い合わせ先：教育実践コラボレーション・センター
〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院教育学研究科
TEL:075-753-3075

野殿・童仙房問い合わせ先：野殿童仙房生涯学習推進委員会
〒619-1401 京都府相楽郡南山城村大字童仙房小字三郷田199番地2
会長 中村富士雄／副会長 西村秀俊

2007年10月19日発行
発行：京都大学大学院教育学研究科
教育実践コラボレーション・センター
「教育空間創造ユニット」
編集：前平泰志
編集協力：柴原真知子
制作：（株）松籟社

自然のなかでテクノロジーを語る

京都大学材料工学スクール 2007 年夏期合宿

9月14日から15日にかけて京都大学材料工学スクールが、旧野殿童仙房小学校で夏期合宿を行いました。この試みは同大学院工学研究科材料工学専攻が、テクノロジーとは無縁の自然豊かなこの地でテクノロジーについて語ろうと関係企業に呼びかけて実現したものです。野殿童仙房生涯学習推進委員会の協賛の下、教育学研究科からも教員、院生が参加しました。地域、企業、大学（工学系、教育学系）の異質な出会いのなかから新たな創造の芽が育まれることを願っています。

松原 英一郎 Eiichiro MATSUBARA
京都大学大学院工学研究科材料工学専攻 教授

社会における材料を伝えたい

旧野殿童仙房小学校で、9月14日から15日の2日間、野殿童仙房生涯学習推進委員会の協賛で京都大学材料工学スクール夏期合宿を行った。京都大学材料工学スクールは、2年ほど前に、社会における材料を学生にも見える形で伝えるために、専攻全体で参加企業を募り、私が世話役となり取り組んできた企画である。これまで冬期フォーラムやリレー講義などの行事を行ってきた。今回はこれらに加え新たな試みとして、大学の施設を離れ、京都府唯一の開拓村にある小学校の廃校で、学生と企業の若手研究者が、一晩寝起きを共にし、語り合うという行事を行った。この企画には、11社から13名の若手研究者にご参加いただいた。京都大学工学研究科材料工学専攻からは、修士1回生17名と若手の助教3名と私の合計21名が参加した。これ以外にも教育学研究科からオブザーバーとして前平教授他、4名の教員と修士学生が参加した。

教育の原点としての交流

小学校の講堂での企業説明会のための会場設営を参加者全員が協力して行うという、通常では全く考えられない会議となった。今回の取り組みで、私が参加した学生諸君に最も感じて欲しかったのは、他人との交流の大切さである。私自身海外での長い留学経験があるが、その時一番感じたことは、日本には全く感じることがない、学歴など全く通用しない外の世界であった。そこでは、誰もが共通で理解できる個人の性格や能力や体力などで信頼を得る以外、コミュニティの中で生きていけないという現実であった。グローバル化が高らかに叫ばれる昨今、教育や組織を云々という前に、全く知らない者同士の中に放り込まれた時に、



材料工学スクール夏期合宿に参加のみなさん

誰でも戸惑いを感じるが、それを自らの努力で克服し、自らを如何にアピールし、他人と知り合いになれるかという個人の力を養成することが、グローバル化社会で生き抜いていくための教育の原点ではないだろうか。今回参加した専攻の修士1回生の約半数と若い教員諸君は、少なくともこのようなことに対する努力を厭わない、若い力であると頼もしく誇りに思っている。

星降る校庭で

今回の合宿の開催にあたり、一番心配したのは、実は天候であった。こればかりは人間の我々にはどうにもならない厄介な問題である。京都市内にいる限り、雨も風情があるなどと悠長なことを言っておれるが、自然に溢れた童仙房では、晴れと雨とは環境に雲泥の差がある。特に今回は、天気予報では50-60%の確率で雨という予報であった。そのため、小学校の校庭でのバーベキューができない場合のことも考えて、メニューを急遽変更し、おでんと芋煮（仙台、山形で秋に河原で小芋を煮て食べる風習がある）を用意した。しかし幸いなことに、京都市内は土砂降りの雨であったらしいが、当日童仙房は快晴に恵まれ、校庭でのバーベキューを皆で楽しむことができた。気温がかなり下がるという地元の人の意見を入れて、鍋料理にし、ビールの購入も控えたのは失敗であったが、うれしい誤算であった。校庭でゆっくりと夜遅くまで、歓談できたことは天候に感謝したい。

体験を将来につなげて……

合宿閉会前に、企業の方々と今回の取り組みについて意見交換会を行った。今回の取り組みで企業側からの意見として印象に残ったのは、学生諸君自らが将来働きたい業種や企業のイメージが固まらない段階で、業界全体や社会人としての生き方なども含め、懇談を持てたことは、企業にとっても極めて貴重であったといわれたことであった。確かにこのような話し合いは、研究室出身のOBが訪ねて来て後輩と話したりするような機会以外はなかなかないと思われる。したがって、このような体験は学生にとっても、自らが将来関与するかもしれない社会を知るための機会として有意義な時間であったと考える。全く手探りで行った企画であるが、無理にでも今回行ったことによって、将来につながる新たな社会教育の手がかりを得ることができたと思っている。今回このような企画を具体的に実現するにあたり、教育フィールドを快く提供していただいた京都大学教育学研究科前平泰志教授と、またこのような取り組みを行うきっかけを作っていただいた同研究科の辻本雅史教授には心よりお礼申し上げたい。



企業と学生が語り合う

いのちを育み、人を育む

今年もはじめました

8月25日、野殿・童仙房に在住のおとな・子ども、教育学研究科の教員・院生ら約20名が集まって、畑の草引き、畝作り、そして種まき、苗植えを行いました。小さな子どもたちも、手いっぱい草を抱えて一生懸命運んでくれました。よく育ちますようにという思いを込めて、大根、聖護院大根、二十日大根、白菜、かぶ、人参、いんげん、日の菜の種をまき、キャベツ、ブロッコリーの苗を畑いっぱいに植えました。また、9月29日には間引き作業も行ないました。元気に育っている苗もひいてしまうのは少々気がひけますが、間引いた野菜も持ち帰って各家庭の食卓に様々な形で並んでいるようです。

収穫後のお楽しみは……

この企画は、農作物（そして、そのいのち）が育っていく驚きといのちを育てる労働の喜びを、すべての子どもたちに知ってもらい、この経験を次世代の子どもたちに伝えてほしいという願いをこめて、野殿童仙房生涯学習推進委員会の立案で昨年度に始めました。野菜作りを通じて身近な食生活に親んでもらうことも目的のひとつです。昨年の収穫祭では、採れた野菜をおいしくいただき、豊かな収穫の喜びを分かち合いました。今年もまた収穫した野菜と地元のおいしいお米で、みんなで食事会をすることを楽しみにしています。あわせて、第6号で紹介した創作和食料理店を運営しておられる阿山哲生さんとの合同企画も検討中です。

「昔子どもだったおとなと今の子どもと未来の子どものための農業体験」

～今後の予定～

- 10月28日（日）13:00～（畑作業）
- 11月18日（日）10:00～（収穫祭・秋の祭典の準備）
- 11月23日（金）南山城村・秋の祭典へ出店
※ご都合のつく日のみでも結構です。

場所：野殿童仙房生涯学習推進委員会の畑
（旧野殿童仙房小学校から南へ徒歩3分）

親子で畑作りをしませんか？

どなたでも、いつでもお気軽にご参加ください。



畑いっぱいに種をまきました